

「特別活動・総合的な学習の時間の指導」における アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の試み —実践的指導力の基礎の育成に向けて—

小 原 孝 徳

Attempting to improve classes from the perspective of active learning in teaching “Special Activities” and “Integrated Study Time”: Toward development of fundamentals of practical teaching skills

OBARU Koutoku

これまで、担当する教職課程の授業をアクティブ・ラーニングの視点から改善し、「実践的指導力の基礎」を育成できるよう、授業内容や展開を工夫しながら実施してきた。「特別活動・総合的な学習の時間の指導」では、授業内容についての模擬授業案や単元計画案作成などを事前学修課題とし、次時で班内での模擬授業実施や計画発表等を行ってさらに全体協議するなどの展開を工夫してきた。本稿は、この授業の成果と課題、さらなる改善に向けた方策を、学生の感想等から考察したものである。

成果としては、事前学修課題作成と班別協議、全体協議等は、学生の主体的な学びにつながった。特に、事前学修課題を、学級担任として必要な場面設定と課題内容となるよう工夫したことが、「実践的指導力の基礎」の育成に有効であった。

キーワード：学修課題、模擬授業、探究課題、学生の探究活動、考える技法

1 はじめに

本学で熱意を持って教職を目指す学生たちに、これまでの筆者の教職経験等を活かして、学校の教育活動にいかせる実践的な力の定着を目指して授業内容や展開の工夫に努めてきた。

その学生たちが目指す、これからの教員に求められる資質能力については、「新たな学びを展開できる実践的指導力（基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力）」¹などが示されている。その後の答申でも、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導・学習環境の設計やICTを活用した指導など、様々な学習を展開する上で必要な指導力を身に付けることが必要である。」など「実践的指導力の基礎の育成」²の必要性が指摘さ

れている。

教職科目の在り方については、平成18年7月11日中央教育審議会答申で、「学校現場が抱える課題に必ずしも十分対応していないこと。また、指導方法が講義中心で、演習や実験、実習等が十分ではないほか、教職経験者が授業に当たっている例も少ないなど、実践的指導力の育成が必ずしも十分でないこと。」³などの課題が指摘されている。さらに大学の教員養成の講義について、「アクティブ・ラーニングの視点からの教育の充実のためには、教員養成課程における授業そのものを、課題探究的な内容や、学生同士で議論をして深め合うような内容としていくことも求められる。」⁴と指摘されている。

これらの指摘から、教職課程の担当授業自体をアクティブ・ラーニングの視点から改善し、「実践的指導力の基礎」を育成することを目指して、授業内容や展開を工夫しながら実施してきた。⁵

こうした中、2017年11月に公表された「教職課程

コアカリキュラム」は、教育職員免許法及び同施行規則に基づいて作成され、ここで示されている教師の資質能力は、全国全ての大学の教職課程で共通的に習得すべきものとされ、また運用にあたって「大学において、地域や学校現場のニーズ、大学の自主性や独自性を踏まえた教育内容を修得させること」⁶としている。そして、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」として「特別活動の指導法」「総合的な学習の時間の指導法」等について、全体目標、一般目標、到達目標が示された。

そこで、本研究では、担当する「特別活動・総合的な学習の時間の指導」において、授業自体を「アクティブ・ラーニングの視点」から改善し、「実践的指導力の基礎の育成」につながる授業内容を構成する方策と課題を、学生の変容等から考察するものである。

2 授業計画の作成

(1) 授業内容の検討

本学では、「特別活動の指導法」「総合的な学習の時間の指導法」をあわせて一つの授業「特別活動・総合的な学習の時間の指導」とし、教員免許校種別に「小学校」と「中・高校」に分けて実施している。本稿では「小学校」での展開を述べていく。受講者は小学校教員免許取得を目指す2年生51人である。

まず、コアカリキュラムで示された「特別活動の指導法」「総合的な学習の時間の指導法」の一般目標、到達目標を基に、授業計画とその内容構成を検討した。

ア 「特別活動の指導法」の内容構成

「特別活動の指導法」で示された一般目標は次の2項目で、到達目標が各4項目である。

- (1) 特別活動の意義、目標及び内容：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。
 - 1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
 - 2) 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。
 - 3) 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。

- 4) 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。
- (2) 特別活動の指導法：特別活動の指導の在り方を理解する。
 - 1) 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。
 - 2) 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。
 - 3) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 - 4) 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

この一般目標の(1)意義と目標、内容と(2)の指導法のうち、特に各活動の特質や内容と指導法は関連させて授業構成を行っていくことで、「実践的指導力」の向上につながると考えられる。具体的には、次の内容を1授業ずつ設定し、目標や特質の理解と、演習を通した指導法の検討を一体化させることを構想した。

- ・学級活動の内容(1)が合意形成を特質としている
- ・学級活動の内容(2)(3)が意思決定を特質としている
- ・児童会・生徒会活動が、異年齢集団で自発的、自治的な活動の展開を特質としている
- ・クラブ活動が、異年齢の同好の集団で、自主的、実践的に取り組むことを特質としている(小学校のみ)
- ・学校行事が、全校又は学年という大きな集団で行われる活動を特質としている

そして、授業毎に、担任として必要となる場面の設定による模擬授業や指導計画等を学生自ら作成して、班別協議や代表発表等により、学びの共有化を図っていくことを構想した。

イ 「総合的な学習の時間の指導法」の内容構成

「総合的な学習の時間の指導法」で示された一般目標は次の3項目で、到達目標が各2項目である。

- (1) 総合的な学習の時間の意義と原理：総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
 - 1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要

<p>となる資質・能力の育成の視点から理解している。</p> <p>2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。</p> <p>(2) 総合的な学習の時間の指導計画の作成：総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>1) 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。</p> <p>2) 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。</p> <p>(3) 総合的な学習の時間の指導と評価：探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。</p>

- 1) 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。
- 2) 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

この一般目標の(1)意義と原理、(2)指導計画の作成、(3)指導と評価は、授業内容の組み立ての順序として成り立つ。そこで、その到達目標を主な内容として、特別活動と同じように授業毎に、担任として必要となる場面の設定による模擬授業や単元計画等を学生自ら作成し、班別協議や代表発表等により学びの共有化を図っていくことで、「実践的指導力の基礎」の育成につながるよう構想した。

(2) シラバスの作成

これまでの検討を基に教職課程コアカリキュラム対応表で整理し、演習等の事前(後)指導を加えて以下のシラバスを作成した。さらに、授業を進めて

＜表1＞「特別活動・総合的な学習の時間の指導（小学校）」シラバス

2020年度 2年生後期

週	テーマ	授業内容	事前(後)学修
1	オリエンテーション	授業の目標・内容・進め方・評価について把握する。自分の特別活動・総合的な学習の時間の経験を整理し、交流する。	シラバス確認
2	特別活動・総合的な学習の時間の歴史と特質	特別活動・総合的な学習の時間の変遷について整理し、特別活動・総合的な学習の時間の特質について理解する。	学習指導要領の変遷を復習
3	教育の課題と教育改革の方向	教育の今日の課題と特別活動・総合的な学習の時間の意義等について考察する。	教育改革関連の情報を収集
4	特別活動の目標と内容、意義	学習指導要領での特別活動の位置づけ、目標と内容、教育的意義について理解する。	特別活動の目標等について調べる
5	学級活動の内容(1)の特質と実践	学級活動の内容「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の特質について理解し、模擬授業を実施して、班別協議等で検討する。	内容(1)の模擬授業案を作成
6	学級活動の内容(2)(3)の特質と実践	学級活動の内容「(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」の特質について理解し、模擬授業を実施して、班別協議等で検討する。	内容(2)、(3)について、模擬授業案を作成
7	児童会・生徒会活動の特質と実践	児童会・生徒会活動の特質について理解し、児童会・生徒会活動の模擬授業を実施し、班別協議等で検討する。	代表委員会の模擬授業案を作成する。
8	クラブ活動の特質と実践	クラブ活動の特質について理解し、クラブ活動の例を班別協議等で検討する。	クラブ活動の活動案を作成する。
9	学校行事の特質と実践	学校行事の特質について理解し、学校行事の模擬授業を実施して、班別協議等で検討する。	学校行事についての計画案を作成する。
10	総合的な学習の時間の目標と内容、基本的な性格	学習指導要領での総合的な学習の時間の目標等や、内容を定める際の考え方を理解する。	総合的な学習の時間の目標等について調べる。
11	総合的な学習の時間の指導計画	各学校における目標設定や指導計画作成、単元計画の事例について、班別協議等で検討する。	目標設定や指導計画作成等について調べる。
12	総合的な学習の時間の学習指導	学習指導の基本的な考え方、探究的な学習の指導のポイントを理解し、展開案を検討する。	展開案を作成する。
13	総合的な学習の時間の指導例	模擬授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点から班別協議等で検討する。	模擬授業案を作成する。
14	評価の在り方	総合的な学習の時間(特別活動含む)の指導と評価の考え方や留意点について理解する。	指導と評価の考え方や留意点について調べる。
15	試験	授業内容の確認	授業全体を整理する。
16	フィードバック	授業内容の再確認、特別活動・総合的な学習の時間の指導の在り方を整理	授業内容を再確認する。

いく中で、学生の反応や感想等により、授業や演習等の内容改善を図りながら実施していくことにした。

(3) 授業におけるアクティブ・ラーニングの取組

授業の実施においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、学生同士の協議を重視して、以下のように運営していくことにした。ただし、新型コロナウイルス感染予防には十分注意しながら指導していった。

<基本的な授業の展開>

- ① 作成してきた模擬授業案や授業構想案をもとに、班内で順に全員が模擬授業等を行い、班内協議を行う。→ 班内協議の場面で筆者が巡回しながら、その報告内容から全体への発表を依頼する。代表（班）が全体に模擬授業等を行い、全体検討、助言を行う。
 - ② 本時の授業内容について、学習指導要領解説や資料を基に、レジュメ等で整理していく。
 - ③ 本時の学修内容や参考資料を基に、実践的演習題の内容を把握する。→ 次時への課題へ
- ・事前（後）学修課題：授業の内容を具体的に実践するための課題を提示し、次回授業の前半に班別協議や代表者発表等を行う授業展開とした。主な内容は、筆者の小学校教諭の実務経験から選定した、担任として必要となる場面でのより実践的な演習課題や模擬授業計画の作成などである。これを平常点の評価資料としても活用した。
 - ・授業レジュメ：事前学修課題の班別協議や代表発表の記録用紙を作成。また、学習指導要領解説等の授業内容を整理したレジュメを毎回配付して授業を進めた。
 - ・班別協議：授業においては、班別協議を充実させるために、4人を一つの班として編制した。そして、班内での役割分担を班別協議の司会、記録と発表、班内意見発表のトップ、資料担当とし、授業回毎にローテーションで交代した。その際、新型コロナウイルス感染予防のため、広い教室に変更してもらい、確実に距離を取った座席を指定して、十分な換気とマスク着用・短時間の小声での交流とした。
 - ・事後学修としての学びの整理記入：本学Moodle上に、授業毎にオンラインテキストで感想や疑問等学びの整理を簡潔に記述するようにした。これも平常点としての評価資料にするとともに、記述

内容や質問などから次の授業改善の資料にも活用した。

3 授業の展開と学生の変容

授業と試験の全16講を大まかに4次に分けて構成した。その授業概要と受講者の意識、授業実践等につながる学びの変容について述べる。感想には、授業の受講名簿番号を記載した。

(1) 第1次（1～3講）

第1講では、授業概要等の説明後、初めて班を構成する班員での協議を円滑に行うためのエンカウンターを行った。その後、受講者自身の小学校時代の特別活動や総合的な学習の時間の記憶を振り返り、班内で共有した。その後の授業で、特別活動・総合的な学習の時間の変遷を整理し、それぞれの特質や意義、教育の今日的課題と方向性等について検討した。

このような授業での学びの概要を、授業後の受講者の感想から把握する。

1 講<班での他己紹介>

- 授業の前半に4人の班で自己紹介・他己紹介を行いました。自分のことについて話しているときに班員が目をしっかり見て笑顔で聞いてくれたことがとても嬉しかったです。これは実際に教壇に立って児童の発表を聞くときに大切にすべき聞き方の姿勢だと思いました。このような聞き方をすると児童も自分の考えが認められてると感じ、自分に自信がつき、発表に対する抵抗が軽減されるはずです。<小2>
- 今回の授業では、まず他己紹介をした。他己紹介をすると相手の話をほかの人に伝えないといけないので、ただ自己紹介をするよりもしっかりと話を聞くことができるなと感じた。この活動は、新学年になって初めの授業で使えるなと思った。<小24>

1 講<小学校時代の特別活動や総合的な学習の時間の記憶共有>

- 「特別活動」と「総合的な学習の時間」の自分の小学生時代に学んだ内容を振り返ることができたことで、改めて、小学生の頃には意識して学んでいなかったことに気づき、学習の目的は何であったのかを捉え直すことができました。更に、班の人達と話し合い、意見を交換することの大切さにも気づくことができました。個人で検討し、自分の考え

をもった後に、班で学習を行う学習展開は、実際に自分が授業を構成する際に生かすことができる進め方であると思いました。＜小23＞

○私は、今回の授業のなかで、自分が受けてきた小学校の時の特別活動・総合的な学習の時間の指導を振り返って、自分が体験したことや他の人と協力してやり遂げたこと、自分でテーマを決めて探究したことが特に印象に残っているなど気づいた。私も教師となり、児童が受け身の授業ではなく、児童が自ら疑問を持ち、自分の意思で学んでいくことを重視していきたいと思う。具体的にどのようにすればそのような授業が作れるのか、これから探究していきたい。＜小9＞

2 講＜特別活動・総合的な学習の時間の変遷等＞

○今回の授業で総合的な時間の創設や学ぶ意義について学んだ。総合的な学習ではあらゆる教科の分野を教科書の指導とは別に地域の実態に合わせた授業展開を行い子ども達の主体性を伸ばすようにしていたと分かった。我々は教師の立場として専門性をもってより主体的で深い学びの実現を進めるための実践を視野を広めてやっていかなくてはいけない。＜小4＞

3 講＜教育の今日的課題と特別活動・総合的な学習の時間の意義等＞

○今回は特別活動・総合的な学習の時間改定の趣旨及び要点と特別活動の目標について学びました。主体的な学びになるよう改定され、特別活動の基本として自主的・実践的な取り組みを通して生活上の課題を解決することで形成者としての見方・考え方を働かせることが重要視されていることが分かりました。私たちが成長していけるように時数や活動を先生が決めていたことを今になって思い出し、この活動が学級の充実につながっていたことを学んだことで先生の偉大さを感じました。難しい点は、探究課題の設定だと思います。ただ探究するのではなくその過程を意識した活動を展開していくことが難しいなと感じました。＜小14＞

1 講では、班内での協議を充実させるため、班内2人組で自己紹介をしあい、その相手の紹介を他の班員に伝える活動を行った。その際、メモを取らないことを指示した。感想にもあるように、話をしっかり聞き、また実際の教育活動でも活用できるような体験になったと思われる。

その後の、自分の小学校時代の特別活動・総合的な学習の時間の体験交流では、それぞれにどんな活動を行い、何を学んだかを振り返り、班員で共有することで、その学習の概要を把握するとともに、

教師として指導していく授業構成への課題意識も芽生えてきており、この学修活動は今後の学修に有効であったと考える。

2 講の「特別活動・総合的な学習の時間の変遷」や、3 講での「意義等」については、資料やレジュメによる整理が中心となったが、事前学修でレジュメ空欄を学習指導要領等を参考に記入したことも、ある程度授業内容の深い理解につながってきている。

(2) 第2次（4～9 講）特別活動の指導

第2次は、特別活動についての授業内容及び学生の変容について述べる。

「特別活動の指導」においては、授業レジュメにより、学習指導要領解説の重要事項について、学生自身で整理できるようにした。そのうえで、「実践的指導力の基礎」が身につくよう、小学校の学級担任として必要な特別活動の具体的な展開場面や、校務分掌での役割を果たす場面等を想定した演習を工夫した。また、特別活動が持つ学級経営の力を高めることにつながるように演習内容にも配慮してきた。

4 講では、「特別活動の基本的性格と意義」「学級活動の目標等」について、学習指導要領解説特別活動編を中心にレジュメで整理していった。また、前時に課題としていた朝の会・帰りの会での「先生の話」を、授業開始後と終了前に班員2人ずつ、班員に2分以内で行った。

＜4 講の感想、朝の会・帰りの会での先生の話＞

○今回の授業では、朝の会と帰りの会の演習を行いました。

児童全員が話題に参加できるような話題というのは、意外と少ないものだなと内容を考えるときに苦戦していましたが、他の人の話題に「今日は何の日？」や「最近〇〇が流行っています。」という内容になるほどと思いました。また、手伝いを促す話題もあり、総合・特活で自主性を身に付けてもらうことにも繋がるなと思いました。＜小49＞

○帰りの会はとても限られた時間であり、子どもたちと関わることの出来る大切な時間であることを改めて感じた。今回自分は秋についての話題であったが、班の人の様々な話題があり、高学年としての自覚を感じさせる人もいれば、子どもたち自身で考えるような言葉の使い方をする人もいてとても勉強になった。このように授業の中で、先生からの学びだけでなく、自分にはない周りの人が持つ考え・見方を取り入れていきたい。＜小50＞

わずかな時間であったが、児童を前にした場面設定で自由に話題を設定させた。それぞれに内容の工夫や班員からの学びと共に、教師の立場の自覚にもつながってきている。

5講では、学級活動(1)の班内での模擬授業と代表班の模擬授業、学級活動(2)(3)の目標、内容と展開例の検討を行った。

模擬授業は、学級活動(1)の「学級や学校における生活上の諸問題の解決」から、議題(3年)「どうぞよろしくの会をしよう」⁷の展開案作成を前時に課題としていた。

< 5講の感想、学級活動(1)の模擬授業 >

○学級会の流れを考えてみたが、こんなにも苦労するとは思わなかった。今までは児童生徒としての参加だったので、こんなにも先生方が苦労して進行方法などを考えていらっしやっていたことに驚いた。学級会の雰囲気などで児童生徒が嫌な思いをしないようにするために、様々な工夫をすることも大切であると感じた。また、学級の係を決める時にも、先生がおっしゃられていたように係によってクラスの雰囲気が変わることはとても共感することが出来た。学級活動によって授業や学校生活が変化してくることが分かった。<小47>

○今回の授業では、班内で学級活動に関する模擬授業を構成し、計画委員会や学級会での話し合いの順や教師の配慮事項、先生が話すべき内容などについて自分たちで考えてきたところをそれぞれ見直し改善しあい、よりよい学級活動の流れについて学ぶことができました。他の班の発表からは、先生役がほとんど見守り役に徹したり、児童がいくつかの主要な提案を挙げて多数決で決めたりするところなど、参考にしたい場面が多く見られ、勉強になりました。<小11>

学級活動の内容(1)の議題設定や合意形成への学級会の進め方などについて、担任としてどう指導・支援していくかを具体的に考えることができてきている。

6講でも、まず班内での模擬授業と代表班の模擬授業、その後児童会活動の目標、内容と展開例の検討を行った。

模擬授業は、学級活動(2)のエ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」の中から

3年生の題材「バランスのよい食事」⁸、又は学級活動(3)のア「現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成」⁹の中から6年生の題材「中学校生活に向けて」の展開案作成を前時に課題としていた。

< 6講の感想、学級活動(2)(3)の模擬授業 >

○私は今回、「バランスの良い食事」についての学級活動の授業計画をしてした。私は栄養が不足しやすい朝ごはんを題材に上げて授業計画した。しかし、朝ごはんというのは家庭状況によって異なるものだから、子どもが意識しても変えることが難しいと分かった。子どもが目標を立てて1人で達成できるものではない。そのようなことを配慮して授業計画を行わなければならないと学んだ。<小25>

○今日の授業で、「中学生になるために」という題材で模擬授業を行った。私は、中学校生活への目標や小6の一年間の目標など、これからの未来を見る授業を行った。しかし、班のメンバーは、小学校6年間を振り返り、成長したことや学んだことから、未来への不安を取り除き、自信を持つことを重視する授業を行っていた。私には、「中学生になるために」と聞いて、未来のことしか見えてなかったのも、あえてこれまでの経験を振り返ることで未来に繋げるという方法もあるということを知った。教師は、さまざまな教材や考え方、進め方からその時々にあったより良い授業を作っていくことが必要だと思うので、たくさんの知識と柔軟な考え方、多面的な視点を持つ教師になりたいと思った。

<小23>

○授業を作るというのは難しいが、自分なりに好きにやりやすい楽しい授業を作っていくのはやりがいがあると思った。また、他の人の授業を聞いて、それぞれ授業の内容は違ったが楽しい授業だった。この練習を続けていくと、とても私たちの力になると思った。前で発表した2人の授業も子どもたちの発問の機会が多く、引きつけ方も上手かったので、楽しい授業だった。<小18>

内容(2)(3)についての教師の展開の工夫や留意点等について、模擬授業の作成と展開を経験することによって、授業づくりの手順や苦労、喜びなどが実感として捉えられてきている。

7講では、まず班内での委員会活動の模擬授業と代表班の模擬授業、その後クラブ活動の目標、内容と活動例の検討を行った。

模擬授業では、第1回〇〇委員会の議題「年間活

動計画を立てよう」との課題で、担当することになった〇〇委員会の活動が活発になるよう、最初の活動計画等を話し合う委員会活動の展開を行った。

＜7講の感想、児童会活動（委員会）の模擬授業＞

○今回委員会の模擬授業をしてみて、話し合う内容を計画立てた時に、去年は活動が停滞していたという反省から「今年のテーマ決め」をしていたことが良かったと思った。ほかの人たちの模擬授業を見て、写真を提示して「課題」や「問題」を発見させるということをするのはとてもいいなと感じた。また、活動の計画をただ伝えるだけでなく、去年の活動計画を提示して見せることで、どんなことをしていたかなどを理解してもらおうと流れつつかみやすいのではないと思った。＜小16＞

○今回は、委員会活動の模擬授業をした。こんな大人数の前でするのは初めてでとても緊張した。模擬授業をした2人とも同じ委員会だったため、自分の授業はどうだったのか反省することができた。私の組み立てた委員会の内容は、去年活動が停滞してしまっていたことをあまり加味できていなかったと思った。同じ委員会での模擬授業はとても刺激になった。何を1番中心に持ってくるのかを考えながらブレないようにしたい。＜小13＞

○代表模擬授業では、二つとも学校の環境に働きかける委員会であり、内容を比較しながら授業に参加することが出来た。内容は全く異なっているのに、それぞれの授業は、児童の思考の流れに沿った展開になっており、何のために委員会を行うのかという明確な目的が最初に示されていたり、上級生しかいないという点を活かした取り組みが行われていたり工夫が目に見えて分かった。自分自身の反省点を改善するとともに、班員や代表の模擬授業から学んだことを今後の模擬授業で活かしていきたいと感じた。＜小48＞

模擬授業の実施から、委員会の担当としてどのような準備が必要なのか、話合いの展開はどうしていくかを考え、その時の留意点などに気づき、他の人の授業からも改善点等を考えていく姿勢が見られる。

8講でも、まず班内でのクラブの構想発表と代表班の発表、その後学校行事の目標、内容と計画例の検討を行った。構想発表は、①担当したい〇〇クラブの目標、活動内容、成果発表の内容。②クラブ責任者として、クラブの設置、児童のクラブ所属決定手順の案を発表しあった。

＜8講の感想、クラブの計画、クラブの設置構想＞

○クラブ活動の計画と運営やどんな活動にするか、成果の発表について自分で様々なことに配慮して考えた。私は「伝統・プロクラブ」の担当になり地域の方々と児童の関りを多く持たせたいと思った。また、児童の希望にできるだけ沿えるようにどんなことをしてみたいかをアンケートで調べることが大切だと思った。班員や代表者の意見を聞いて雨天時の場合の活動内容や場所を各クラブが決めておくことや、教師の指導か、地域の人に教えてもらうのか、年間予算などまだまだ考えるべきことが沢山あることに気づいた。＜小2＞

○今回の授業では、クラブ活動案検討と学校行事について学びました。クラブを検討する時に思ったことは、その地域特有のクラブ活動を考えることは面白いなことだと思います。具体的に、地域で知られている昔遊びの名人や楽器の先生など、担当教員がいながらも、外部講師としてお招きすることができれば、子ども達に伝統や文化を伝えることができるからです。こういったクラブの設置は、設置・所属決定の手順で学んだことを基に考えていきたいです。＜小49＞

クラブの指導担当として、活動計画や成果の発表など、さらにクラブの設置手順等も考えることで、地域との連携や学校組織としての取組について考えることができてきている。

9講でも、学校行事の実施に係る班内での構想発表と代表班の発表を行った。内容は、①避難訓練（火災）の計画を職員会議に提案、②避難指示が出るまでの間に、火災時の避難について2年児童に話をする、③避難指示が出るまでの間に、地震時の避難について5年児童に話をする、という場面の模擬指導を実施した。その後「総合的な学習の時間」の改定の趣旨、目標等の整理を行った。

＜9講の感想、学校行事（避難訓練の計画、実施）＞

○今回の授業の冒頭で、避難訓練計画案の共有をしました。いつ来るか予想できない災害に対して子どもたちのみならず教師も緊張感を持って臨まなければならない活動の1つだと改めて思いました。各学校で異なる構造も視野に入れながら状況設定、避難ルートの確認をしなければならないと思いました。また、先生も仰っていたように、毎年出火場所を変えるなど、災害に対する意識を高く維持していくことが重要だと思いました。＜小3＞

○教師として何よりも優先すべき児童の命を守るためには、訓練の時だけでなく、児童に意識化を図ることの重要性を改めて痛感しました。災害はいついかなる時に起こるかわからないことを児童と共有し、教師として実働できるようにしておこうと思いました。＜小9＞

○避難訓練でどのような心情を養うのかという所が、私が避難訓練計画を立てる上で1番迷った。そのため、班内での発表では、特にそこに注目して聞いていたが、自分の命は自分で守るのだという心情というのを聞いて、避難訓練の意義はそこにあると感じた。また、避難指示までに子どもたちに話す内容を発表した際に、本当に災害が起きた時このような話ができるのだろうかという話になった。避難指示は、子どもたちが自分の命を守るために行うものだが、同時に教師が自分、そして子どもの命を守るための訓練でもあると感じた。＜小29＞

学校行事の取組例「避難訓練」の計画と実施の場面を具体的に計画させたが、「児童の命を守る」という教師としての自覚や、避難訓練の意義等についても考える機会となっている。

(3) 第3次（9講～14講）総合的な学習の時間の指導

前時の9講で、総合的な学習の時間の改訂の趣旨や概要、総合的な学習の時間の目標などについて整理した。10講からは学習指導要領解説の重要な事項を整理すると共に、学校教育目標に基づいた学校独自の目標を設定することや、その目標にそって地域の特徴を活かした「探究課題」の設定等について、学生自ら探究課題を設定して探究させ、単元計画等を作成していくことを重視した。また、小学校の総合的な学習の時間の内容の特色である「考えるための技法」や「プログラミング」の体験を授業の演習内容として実践し、「実践的な指導力の基礎」につながる展開となるよう工夫した。

10講では、「総合的な学習の時間の構造イメージ（小学校）」¹⁰を基に、「学校で定める目標及び内容等」を整理した。

＜10講の感想＞

○今回の授業を通して、各学校において設定する目標、内容が異なること、それらを達成する為の探究課題がいかに重

要であるかを学ぶことができました。子どもたちは多くのことに興味を持つ中で教師がしっかりと何について学ぶか、どのようなことができるようになるかということを明確にする事が重要でないかと考えました。そして、各学校の特色を生かした、とあるように自分の赴任先の学校がどのような教育目標を掲げているのか、雰囲気や行っている活動はどのようなものかなどを事前に知っておくことも重要だと思います。その上で、担任になったクラスは現段階においてどのような力が必要なのかを見抜いて、総合的な学習の時間を活用できる教師になりたいと思いました。＜小3＞

○教師として決められた目標を実現するためにふさわしい「探究課題」をいかに深めて行けるかが1番重要であることを学んだ。子どもたちが何を学ぶか、何ができるようになるのかを明らかにして行かなければならない。

（生きて働く）というワードが何度も出てきて私の心に残った。子どもたちの探究的な見方や考え方を養うためにも、教師が疑問をたくさん持ち、それを調べていく取り組みが必要であると改めて感じた。＜小12＞

学校毎に目標を定めることに、驚きと難しさを感じた学生が多かった。これからの学生自身による探究活動をとおして、目標と探究課題のつながりも考えさせたい。

11講では、「指導計画の作成」について整理したあと、解説に示された「探究課題の例」を参考に、教育実習予定校などを想定して自分なりの「探究課題」の候補を設定させた。その中から一つを選択して「拡散的に探索する手法の例」¹¹を参考に、学生自身が「探究課題」を探究し、整理してくることを12講への課題とした。

＜11講の感想、「探究課題の設定」＞

○今日の授業を受けて、指導計画の作成において実際の現場でも学習指導要領解説に掲載されていることを参考に作られているということが分かりました。また、学習活動の記載例から学年ごとに研究課題のテーマが大まかに決まっていることや単元の展開が提案されていることを知り、前回よりも探究課題の内容を考えやすくなりました。地元の実態に基づいた探究課題を考え、実際に体験出来ることなどを調べて、子どもたちが授業の中で興味関心がさらに湧くような内容にできるよう、考えを深めていきたいと思います。＜小20＞

○目標や内容に加えて、探究課題や具体的な資質・能力は各

学校で定めることになっていて、一から考えるのはとても大変だなと感じていた。しかし、学習指導要領解説を参考にして作成している例を見て、学校の地域特性や児童生徒の実情に合わせることによって、学校独自のオリジナリティが生まれると思った。探究課題を自分で考えるのは難しいが、社会の授業でやったように自分が生まれ育った町の人・もの・ことの探究活動を通して、自分自身も新たな学びを得られると思った。＜小5＞

○今回は、地域、校区の伝統的なものについて調べました。私の地域は田迎です。田迎は昔から花のまちと言われ、花のまち田迎という歌があるほどです。今では、田畑が減ってしまい多くの家が立ち始めています。しかし、今までの伝統を引き継いでいくためにも地域の方々の工夫が必ずあると思います。その工夫を課題の中で見つけていこうと思いました。小学生のときよりも地域が好きになっていると感じます。それは、知ることがとても楽しく、身近に感じるからだと思います。このような経験を小学生にさせたいと強く思いました。＜小17＞

学生が自ら探究していこうと設定した「探究課題」は、「探究課題の例」¹²に沿って整理すると次のとおりである。

○横断的・総合的課題

- ・国際理解 2人：ALTの国ってどんな国？日本へなぜ来ましたか？
- ・環境 9人：ゴミを資源に、ホテルを守る、エコフェスタ…
- ・福祉 3人：高齢者を支える人・施設、障害者支援施設…
- ・健康 1人：新型コロナウィルス対策について考えよう
- ・食 1人：西里の農業生産と食に関する問題

○地域や学校の特徴

- ・町づくり 3人：玉名市の町づくり、人吉市鍛冶屋町の町づくり…
- ・伝統文化 20人：「妙見祭」「どんどこ」「地蔵祭り」「牛深ハイヤ踊り」
- ・伝統工芸 3人：「小代焼は限定品」「川尻刃物」「天草陶石と高浜焼」
- ・地域経済 7人：「子飼商店街」「健軍商店街」「植木スイカ」…
- ・防災 1人：防災のための町づくりと取組を知ろう

○児童の興味・関心

・キャリア 1人：身近な仕事について知ろう～介護士
学生は、教育実習校所在地等も想定しながら、祭りなどの「伝統文化」や「環境」、商店街などの「地域経済」、「福祉」や「町づくり」「伝統工芸」など、多様な「探究課題」を設定し、探究してきた。自ら設定した探究課題を学生が探究していくことで、児童の探究活動の想定がしやすくなり、今後の指導者として単元計画等の作成につながると期待した。

12講では、自ら探究した「探究課題」の内容を班内で発表して検討しあい、代表3人が全体発表を行った。その後、解説第7章の第3節「探究的な学習の指導のポイント」¹³で学習過程を整理した。また、「小学校プログラミング教育に関する研修教材」¹⁴を視聴し、事後課題としてScratchの基本操作と「正多角形をかく」等を体験することとした。また、課題として、自らの「探究課題」について、単元計画の①課題の設定、②情報の収集、の部分を中心に作成することにした。

＜12講 「探究課題」の探究交流とプログラミング体験＞

○伝統だけでなく、地域の高齢者の暮らしや福祉や地域の防災、地域の商店街も授業で取り扱うこともあるんだと学べた。町の商店街、発展の内容を取り扱うと楽しいなと思った。自分たちの町の発展の過程や、今活動している方々について調べることで、町の後継者となる子どもたちの能力や、意識の向上につながる。課題に向けて子どもたちが自覚的に課題意識を持てるように教師の意図的な資料の提示も必要であることを学んだ。対象に直接触れる体験活動。これは、本当に子どもたちが探究しようと思える1番の取り組みだと思った。実際に体験することで取り組みへの意識が芽生えるため、どの分野でも、子どもたちの主体的な姿勢を1番として、そのあとに教師の意図的な支援が大切になることを学んだ。＜小12＞

○今回は、探究課題の共有をした。みんな地域の場所に合わせた課題を考えてきていて、聞いていて学びたいものばかりだった。課題を聞くだけでその地域はどんな所なのか分かり、どんなことに力を入れているのかも見えてきた。班の人や代表の人の発表から、自分のプランには伝え合う、誰かに伝えるという項目が出来ていないと思った。どんなことを学んで、身につけて欲しいのか考えた上で課題を選んでいくから、わたしもそのようにして授業の流れを決めていきたいと思った。＜小13＞

○授業の後半は、プログラミング教育について学習しました。その中で、使えることをではなくプログラミングを通して「考える過程」や、「試行錯誤する力」を身につけさせることを目指すべきだと思いました。そして、小さな成功体験を1つでも多く経験させてあげられるような授業を考えていく必要があると思いました。＜小3＞

○今まで論理的思考力ってなに？と思っていた。実際にプログラミングをやってみたことで、ねこをどうやったら思い通りに動かせるのか、何処にこのコードを組み込んだら上手くいくのかと結構悩んだ。このように、自分の思い描いた動きをさせるためにはどうすべきか考えるのが論理的思考力を養うことに繋がるのかな、ということがわかった気がした。＜小24＞

「探究課題」についての報告からは、多様な探究課題が設定できること、そしてそれぞれの探究内容から地域のよさなど多くのことが学べることを実感できてきた。児童が設定して探究していく「探究課題」を学生自らが探究することで、授業設計者としての展開の工夫が見えてきている。また、プログラミングの体験から、論理的思考の意味を考えることや、そのねらいの理解もできてきている。

13講では、作成してきた探究課題の①課題の設定、②情報の収集の計画を班内で報告・検討しあった後、代表3人が全体へ報告・検討した。その後、「考えるための技法の活用」¹⁵について整理した。また、課題として「シンキングツール（思考ツール）を学ぶ」¹⁶から一つを割り当て、そのねらいや使い方等を調べて応用紙にまとめてくることにした。また、自らの探究課題の③整理・分析、④まとめ・表現、の計画作成を課題とした。

＜13講 「探究課題」の単元計画（前半）交流と思考ツール＞

○今回の授業の冒頭では、各自が選択した探求活動の単元計画の共有をしました。班員、代表者の発表を聞いて、まず流れがとても考えられていると思いました。その流れの過程一つひとつの中に、教師が子どもたちに求める資質・能力を様々な活動や資料を通して、身につけさせようとする意図が見えました。私も再度自分の探求計画を見直し、学習の流れは適切か、自身が子どもたちに求める資質の能力を、活動をとおして身につけさせられるか、検討したいと思いました。＜小3＞

○今回は、班での交流や代表の意見を聞きましたが、どの地

域にも素晴らしい特色があり、知らないことばかりだったので驚きました。そして、みんなその特色をしっかりと掴んでおり、ひとつのストーリーの様に上手く単元にまとめられていた所がすごいと感じました。起承転結があるような感じで、子どもたちもやりがいをもって取り組むのでは無いだろうかとワクワクしました。私ももちろん、取り組んでみたいと思う内容でした。課題名ひとつにしても、ネーミングをこだわったりするだけで子どものモチベーションに繋がることもあるかもしれない考えると、子どもを引きつけるためのヒントはたくさん隠れているんだなと思いました＜小7＞。

学生自身が身近な地域の探究課題を探求した経験をもとに、課題設定や情報収集についての単元計画を作成したことにより、それぞれの地域の特色を活かした単元計画となり、互いに参考になる計画が作成できたことがわかる。

14講では、調べてきた思考ツールについて、応用紙を使って班内で発表し、協議した。また、探究課題の③整理・分析、④まとめ・表現の展開を、班内で発表し、協議した。

その後、特別活動、総合的な学習の時間の評価について、解説や「学習評価の在り方ハンドブック 小中学校編」¹⁷を参考にして整理した。

＜14講 思考ツールの共有、「探究課題」の単元計画（後半）交流＞

○授業の前半は、思考ツール、「探究課題」の「まとめ・表現」計画の共有をしました。思考ツールでは、特徴だけでなく例も分かりやすく皆まとめていたと思いました。発表を通して、再度思考ツールの使用範囲の広さを実感しました。単に目的に応じたツール選択をするのではなく、担当する児童の実態も配慮することが重要だと思います。探究課題の計画の共有では、自分では思いつかなかったような発想をたくさん知ることができました。また、地域の人とのつながりをこの探究課題を通してつくるような活動だったり、学校の他学年にも興味をもってもらおう活動だったり、様々なところで共有する、誰かに見てもらうといった目的設定することも、探究課題解決を行うモチベーション最後まで維持できるのではないかと考えました。そして、評価についてですが、それぞれの活動過程において必ず子どもたちの得意分野、苦手分野が見られると思います。私は特別活動や総合的な学習において、正解がないというところ

から教師はマイナスの部分ではなく積極的にプラスの部分を見つけることが特に重要でないかと思います。＜小3＞

○今回は、思考ツールと後半単元計画の発表をした。思考ツールの発表では様々な思考ツールについて知ることができた。どんなふうに使おうと情報を整理・分析しやすいか、例を出して説明していたりしてありわかりやすかった。私も授業の中で探究課題にあった思考ツールを使って児童の学びを助けられるようにしたいと感じた。また、後半単元計画発表ではそれぞれの探究課題をつかって地域のことや環境のこと日本のことなどを学べるようにしてあった。また、整理・分析ではうまく思考ツールを使って考えるようにしてあったり、まとめ・表現では、ただまとめるだけでなく、新聞や広用紙にまとめたり、地図を作ったりするなどの工夫がみられた。さらに、発表の仕方もクラスの発表だけでなく、劇を試みたり、近隣の小学校と学習発表会を行ったりするなどいい案がたくさんあったので、私も取り入れたいと思った。＜小24＞

思考ツールの報告では、広用紙に担当したツールの特徴や使い方とその例を具体的に示して説明し合うことで、自分以外の3つを知ることはできた。また、単元計画の後半部分の報告では、その思考ツールを使って整理していくことなども計画しており、早速活用が図られていた。

15講で試験を実施し、16講でフィードバックとともに、総合的な学習の時間の体制づくりや環境整備等について整理し、具体的な実践例を検討していくことにしていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大傾向のため、急遽授業が遠隔授業に変更されたことにより、試験をレポート提出に代えるとともに、16講の内容を15講として遠隔授業で実施した。

具体的実践例として、「熊本地震復興数え歌」についての田山実践¹⁸を取り上げて検討し、その優れた取組や展開について学ぶことができた。

＜15講の感想＞

○今回の授業でも多くのことを学ぶことができました。児童の成長を多面的に捉えるために、多様な評価方法や評価者による評価を適切に行うことの重要性について学びました。また、授業を充実させるための体制づくりについては、多様な体験活動を行うために外部連携の構築を行うことの重要性を感じました。外部連携を行うための留意点として、

日常的な関わりについての話がありましたが、人と関わる力は子どもたちや保護者、他教師と関わるきにもとても重要であると思います。人と関わることで多くのことを学び、自分自身成長していきたいと改めて思いました。＜小9＞

○今日の授業を受けて、総合的な学習の時間をより進めやすくするために必要なことについて学ぶことが出来ました。これまで総合的な学習の時間の単元構成について考えていく中で、地域の方々に協力してもらう部分や施設に行くなどの計画を何気なく立てていました。しかし改めて振り返ると、それらを叶えるためには外部と事前に連携を行わなければならないと分かりました。その為に普段から学校でされている活動について公開するなど社会に開かれた教育を目指さなければならないと考えます。教師として授業する上で、授業を作るだけでなく協力を得るための関係性の構築を図ることを心に留めていきたいと思います。＜小20＞

○今回は授業の総まとめで、教育を行う上ではその環境の整備が非常に大切なんだと思わせられました。校内の体制作りはもちろん、校外でもきちんと繋がりを持ち、子どもにとって最適な環境で教育が受けられるよう努めねばならないと思いました。私が出来ることとしては、若い価値観を持ったものとしてたくさん考えを出し、報告・連絡・相談を忘れずに、一教員として役目や責任を果たすことだと感じました。＜小7＞

＜具体的授業実践（田山「熊本地震復興数え歌」実践）についての感想＞

○田山先生の資料を読み、こんな総合的な学習の時間を作ることができたらきっと児童も自分の達成感でいっぱいになるだろうなと思いました。この活動では、ただ数え歌を作ろうという目標のもと行うのではなく、熊本地震の記憶や、当時の状況の継承、また、児童の考える力の育成や、毎回の活動を振り返りそれを今後に生かすための活動が組み込まれていました。また、熊日の方や県立大の教授、保護者の方々などたくさんの人と人との繋がりによりこの数え歌は完成し、広がっています。このことも児童に感じさせることができ、この数え歌を作った児童たちはきっと1年で大きく成長したのだらうなと思いました。私もこのような児童を夢中にさせつつ、成長させることができ、さらに未来の継承者として社会にかかわることができる時間を持てるようにしたいなと思いました。そのためにも今まで授業で教わってきたように、また、今回の田山先生のように新聞などから情報を得て、それを教材研究し自分が学んでいくことで、児童とより有意義な時間を共有することができ

たらしいなと思いました。＜小6＞

○熊本地震を題材として作られた「復興数え歌」の作品の内容からは、自身に対する恐怖心や復興への思い、当時の沢山の人々同士での協力を表現されており、私も同じ経験をしたので共感する部分が沢山ありました。この取り組みを学習の活動として取り入れた田山さんの実践方法は、とても参考になりました。児童の主体性をはぐくむためにシンキングツールを使って分かりやすくまとめたり、被災者の気持ちや復興への思いを地域の人に聞いたりして、さらに学びを深めていく取り組みを行っていました。その思いをどうやって社会に広げていくかを児童自らが考えるための導入や、地域との連携や協働がいかに大事であるかがとても分かりました。社会に開かれた教育課程を実現するために必要な方針として、地域や家庭、学校内の教職員との連携や、アクティブ・ラーニングの視点から授業を進めるための教師の資質能力の向上が重要となってくると理解しました。この15回の授業を通して学んだことを活かして、教師として児童生徒の主体性を育む能力を伸ばしていけるように頑張ります。＜小8＞

○この実践を読み、多くのことを考えました。子どもたちについては、平成の熊本地震の記憶を風化させず、後世に伝え、今後の大地震の際に生きる一助にするという意識を持ち、主体的に行動することができる子どもたちは素晴らしいと思いました。それと同時に、教師としてそのような子どもたちの思いを大切に、教育を通して大切なことに気づける子どもたちを育てたいとも思いました。その学習活動のきっかけとして、田山さんが熊本日日新聞に掲載されている記事を紹介したという文が記載されていたが、教師がそのような部分まで把握しておくことでより良い学習活動に繋がると感じ、改めて教材研究の重要性を学びました。また、学年に応じた授業展開がされており、自分も授業構成を考える際に意識していた主体的・対話的な深い学びや外部との連携、思考ツールも活用されており、自分たちが受講させていただいた授業で経験したことの重要性を学び、必ず生かせる経験であることを改めて感じました。この実践を読み、今すぐこのような授業ができるかと言われたら自分は実力不足だけれども、自分の授業しか見ないのではなく、他の教師の授業からも多くのことを学び、それを実践し、改善するという気持ちを忘れずに、今後も模擬授業等を行っていききたいと強く思いました。＜小9＞

○今回は田山氏の実践を一通りみて、児童生徒が自分たちで何かをしたい！考えたい！と言う気持ちで学び考えること、あらゆる人と関わることによって視野を広げ、自分たちが発信していく側になることなど、初めの課題をどう持たせ

るかひとつによってその後の学びも大きく変わるのだということがわかったように思う。児童生徒の学びは教師と児童生徒の中だけではないことをしっかりと忘れずに、様々な機関や人たちと連携・協働していきたい。また、教師自身の情報収集や教材研究、事前の計画・準備が大切であり、欠かせないのだと改めて感じる事が出来た。少しでも知識を取り入れ、情報を取捨選択するためにも、日頃から新聞、ニュースを見ることを習慣づけたい。＜小50＞

15講では、特に田山実践を検討することによって、これまで学修してきた目標の設定や「探究課題」の設定、児童の主体的な探究過程、関係機関等との連携・協働、さらにはそれを支える教師自身の教材研究の重要性などを、事例として確認しながら学ぶことができてきている。そうした意味で、この田山実践を検討させる価値は高いと考えられる。

4 授業についてのアンケート結果から

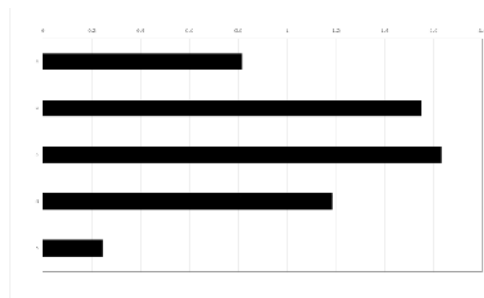
14講の終了前に、本授業全体について、「授業実践力を高める」視点からの学修活動それぞれについて受講学生による無記名の評価を行い、今後の授業改善の資料にすることとした。

調査項目は、授業全体での学修活動と、特別活動、総合的な学習の時間の模擬授業等について、各5段階で評価してものを集計した。その結果が以下のとおりである。

図1 授業アンケート結果（授業全体の取組）

(n=49 五段階評価のうち 5→2点、4→1点、3→0点、2→-1点、1→-2点に換算)

授業全体の取組	5	4	3	2	1	計	平均
レジュメの空欄記入	15	20	6	6	2	49	0.816
事前学修課題の作成	33	11	4	1	0	49	1.551
課題の班内発表・検討	36	9	3	1	0	49	1.633
課題の全体発表・検討	25	17	4	3	0	49	1.184
Moodleへの感想記入	9	11	15	1	3	49	0.245



<自由記述>

- ・班内の発表で、他の人のいろいろな考えを聞くため、自分の考えや視野を広げられた。 16
- ・課題を自分で考えて実践することは大変だったけど、どの教科にも生かせる力となった。 9
- ・課題に感想を書くのと、Moodleにも感想を書くので負担が大きい。どちらかにして。 9
- ・授業構成、単元計画や年間計画の作成方法など実践につながることを学べた。 7
- ・課題の意図がわからず、どう書いていいのかわからなかった。説明を十分にして 5
- ・課題が一度に出す量が多くて大変だった。 4
- ・要領解説の空欄を埋めることに抵抗があったが、繰り返していくと理解していける。 2
- ・要領解説の空欄を埋めてきて、授業でも繰り返す点は？もっとまとめてほしい。 2
- ・班内検討で改善点などを検討できた感覚が少なかった。途中の班変更も考えて 2
- ・班内の発表の際、周囲の発表と声が重なって聞き取りづらかった。 1
- ・班内発表などからの改善点を踏まえて、自分の計画等を変更できる時間があると深まる。 1

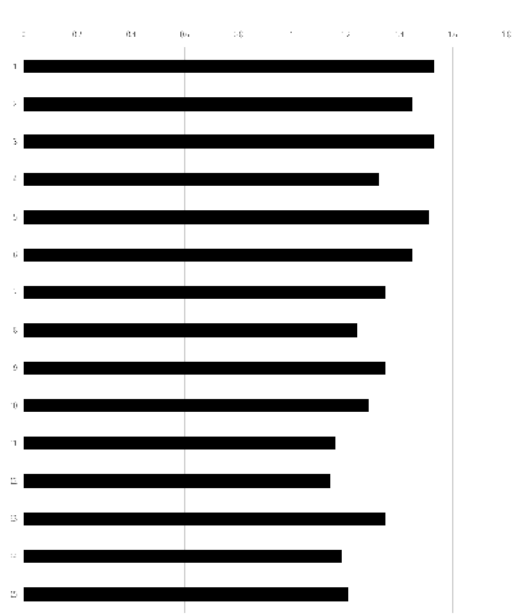
授業全体の取組としての評価では、実践的な課題について事前学修等に取り組んだことや、その課題についての班内発表・検討については、これまでの学生の学びの内容からもわかるように評価が高い。しかし、課題の全体への発表や検討については、や

や評価が下がる。学習指導要領解説を中心とした記述の穴埋めによる整理や、Moodleへの感想記入については評価が低い。また、課題への説明が不十分だという指摘や課題に対する量などの負担感が大きいこと等の課題が示されている。

特別活動

図2 授業アンケート結果（特別活動）

実践的課題		5	4	3	2	1	計	平均
4 講	朝・帰りの会の話	作成	29	17	3		49	1.53
		発表	28	16	4	1	49	1.45
5 講	どうぞよろしくの会	作成	29	18	1	1	49	1.53
		発表	23	21	4	1	49	1.33
6 講	・よい食事 ・中学校へ	作成	28	18	3		49	1.51
		発表	30	13	5	1	49	1.45
7 講	委員会活動計画	作成	25	18	4	2	49	1.35
		発表	23	18	6	1	49	1.24
8 講	クラブの年間計画作成	作成	23	21	4	1	49	1.35
		発表	24	18	5	1	49	1.29
	クラブの所属決定方法	作成	19	23	4	2	49	1.16
		発表	23	21	8	1	49	1.14
9 講	避難訓練計画作成	作成	23	21	4	1	49	1.35
		発表	19	22	5	1	48	1.19
	待機時の話	作成	19	21	7	1	48	1.21



＜自由記述＞

- ・模擬授業や計画作成で、直接教師になっていかせるもので実践力が高まったと思う。 19
- ・課題が、例や参考になるものが少なく、漠然としていて苦労した。わかりやすく説明して 6
- ・クラブや委員会の計画が難しかった。 4
- ・避難訓練について学ぶ機会はなかったので、とても重要なことだと思った。 3
- ・常に自分でどのようにしたらいいかと考え、とても身になる学修活動だった。 2
- ・朝の会など詳しく課題が設定されていたので、今後教師としての見通しが立てられた。 2
- ・はじめは2分の内容を作るのも難しかったが、今は4分でもたりないように感じるまでになった。 1
- ・実践力を高めるにはいいと思ったが、量が多かった。 1
- ・子どもへの話す力がついた。 1
- ・特別活動のそれぞれの活動の特色がわかるようになった。 1

特別活動の実践的課題については、自由記述にもあるように「実践力が高まった」という評価が多いことは、ある程度この授業の目標を達成したと考えられる。

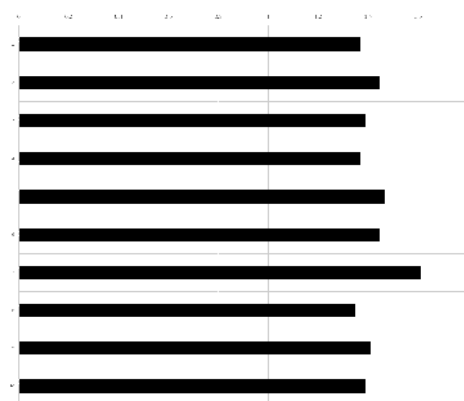
しかし、傾向としては、クラブや委員会についての計画づくり等の評価が低い。自由記述で多く指摘されているように、課題についての説明が漠然とし

ていたのだろう。また、全体的な傾向として模擬授業等の課題について「作成」することの評価が高く、班内等での「発表・検討」の方が低い傾向にある。班内での協議の仕方もさらに改善の必要があると考えられる。

総合的な学習の時間

図3 授業アンケート結果（総合的な学習の時間）

実践的課題			5	4	3	2	1	計	平均
11	探究課題	選択	27	14	7	1		49	1.37
12	設定「探究課題」	探究	28	16	4	1		49	1.45
		発表	29	13	5	1	1	49	1.39
	プログラミング	体験	27	14	7	1		49	1.37
13	前半の単元計画	作成	31	12	5		1	49	1.47
		発表	34	6	7	1	1	49	1.45
14	思考ツールの研究	作成	36	8	4	1		49	1.61
		発表	27	14	7		1	49	1.35
	後半の単元計画	作成	30	12	4	3		49	1.41
		発表	31	11	3	3	1	49	1.39



＜自由記述＞

- ・自分で考えて探究課題や単元計画などを作成したので、実践力がついた。 9
- ・思考ツールなどの知識を多く知ることができて、実践につながると思う。活用したい。 8
- ・プログラミングについて学べてよかった。 7
- ・プログラミングをもっと詳しく学びたかった。 4
- ・課題で何をしなければならぬか分かりにくかった。わかるように説明してほしい。 4
- ・「探究課題」を自分で探究し、地域のことを改めて考えることができた。 3
- ・詳しく課題が設定されていたので、今後教師としての見通しが立てられた。 2
- ・思考ツールは、班内の数個しか学べなかったもので、全部学べるようにしてほしい。 1

総合的な学習の時間についても、自分で設定した「探究課題」の探究や思考ツールの研究、単元計画の作成等は高い評価を得ている。自由記述でも「実践力がついた」などの感想が出されている。課題としては、やはり課題の説明が不足していることが指摘されている。さらにはプログラミングや思考ツールについて「もっと学びたかった」との感想もあり、授業の時間設定の改善も検討したいが、学生自身の今後の主体的な学びにも期待したい。

5 成果と課題・改善の方向

これまでの検討をとおして、成果と課題・改善の方向について整理する。

(1) 成果

- ① 「アクティブ・ラーニングの試み」として、授業形態としての事前課題についての作成や、班別協議、発表と全体協議は、学生の主体的な学びに有効であるといえる。学生は、その中で自ら工夫して考えた授業構成や単元計画等を作成することでより実践的な学びとなり、さらに他の学生の発表により、自分にはなかった多様な考えやアイディアを知ることができた。
- ② 特に「実践的指導力の基礎」の育成に向けて、授業内容についての事前学修課題を、できるだけ担任として必要となる場面での設定となるように工夫した。その模擬授業設計や単元計画、実際の児童への指導場面などを1人1人が工夫して作成して、それを班内で発表・実施し、検討しあってきた。このことが、これまでの感想等からもわかるように「実践的指導力の基礎」の育成に有効であったと考える。

(2) 課題・改善の方向

- ① 「アクティブ・ラーニングの試み」としての授業形態では、感想にも見られた班別協議・全体発表等の課題がある。班別協議や全体発表の進め方など、さらに効率的な授業運営を検討していく必要がある。
- ② 「実践的指導力の基礎の育成」に向けては、事前学修課題についての十分な説明や例示が必要である。ただ、学生の主体的な学びの視点か

ら、学生自身の豊かな発想や工夫が発揮できるよう、その課題の在り方や説明を検討していきたい。また、学生の負担軽減を図るためにも、授業内容や事前学修課題等をさらに整理していく必要がある。

おわりに

これまで授業で作成し協議してきた模擬授業計画案や探究課題の探求成果などから、「実践的指導力の基礎」の育成につながる学修ができたと評価できる。しかし、さらに学生の負担軽減を図りながら、効果を上げる授業内容や課題の研究が必要である。

今後も、担当する授業をアクティブ・ラーニングの視点から改善を図るとともに、「実践的指導力の基礎」の育成に向けて、授業構成や内容、事前学修課題、協議の持ち方などを検討しながら、さらに授業改善に取り組んでいきたい。

謝 辞

本研究を行うにあたり、熊本市立日吉東小学校田山雅博教諭には、田山実践論文の授業での使用について快諾いただきました。また、受講生の皆さんも率直で貴重な感想等を提供してくれました。この場を借りて深く謝意を申し上げます。

注

- 1 中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」2012年8月28日
2. これからの教員に求められる資質能力 P2（最終閲覧日2021年9月14日 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm）
- 2 中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」2015年12月21日 3-(3) 教員養成に関する課題 P16（最終閲覧日2021年9月14日 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm）
- 3 中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」2006年7月11日 4. 教員養成・免許制度の現状と課題（最終閲覧日2021年9月14日 <https://>

- www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337002.htm)
- 4 注3に同じ。4-(4) 新たな課題に対応した教員研修・養成 P42
 - 5 拙稿「教職科目におけるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の試みー授業設計方法の定着に向けた「社会科教育法」の取組を中心にー」『紀要 VISIO 第47号』九州ルーテル学院大学 (2018年) P81-98
 - 6 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会『教職課程コアカリキュラム』2017年11月17日 (最終閲覧日2021年9月14日 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/houkoku/1398442.htm))
 - 7 国立教育政策研究所教育課程研究センター「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」2013年7月 P6-7 (最終閲覧日2021年9月14日 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j.pdf)) 平成20年告示学習指導要領での展開例であるが、内容は現行指導要領に対応でき、学生が展開を考える場合に適切であると考え、授業資料として活用した。
 - 8 注6に同じ。P12-P13
 - 9 国立教育政策研究所教育課程研究センター「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」2018年7月 P16-P17 (最終閲覧日2021年9月14日 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h301220-01.pdf))
 - 10 文部科学省『学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編』(東洋館出版) 2018年 P18
 - 11 9に同じ P103 第6章3節
 - 12 9に同じ P77 第5章3節
 - 13 9に同じ P114~ 第7章第3節
 - 14 文部科学省HP (最終閲覧日2021年9月14日 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm))
 - 15 9に同じ P82~ 第5章の第3節4
 - 16 ロイロノート・スクール「シンキングツール (思考ツール) を学ぶ」(最終閲覧日2021年9月14日 (<https://n.loilotv/ja/thinkingtool>)) などを参照した。
 - 17 国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック 小中学校編」2019年6月 P6-7
 - 18 田山雅博『『社会に開かれた教育課程』の実現を『総合的な学習の時間』から』東京書籍第34回東書教育賞入賞論文 平成30年度小学校最優秀賞 (熊本市立日吉東小学校教諭) 2019年 (最終閲覧日: 2021年9月14日 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/contest/kyoiku/no34/tayama.pdf>)))